



古道を訪ねて ②④

巡礼道

(勝尾寺・中山寺) ⑥

箕面5丁目4番の巡礼道沿いに「平尾の北向地蔵」があります。北向地蔵の名前の由来は北を向いているからで、「平尾」は箕面地区の旧の名称です。



▲北向地蔵

お堂の中に4体の石仏が祀られているほか、お堂の西側には、数多くの地蔵や阿弥陀などの石仏や、元禄13(1700)年建立の庚申を祀った「青面金剛」の石塔があります。北向地蔵は、別名「泣き地蔵」と呼ばれています。それには次のような民話が伝えられ

ています。

「昔平尾村に、乳飲み子を残して女房に先立たれた農民がいました。夜になると母恋しさに泣きだす子どもをあやそうと、その子を背に負ってあてもなく歩きまわるうち、この地蔵さんの前を通りかかるとびたりと泣きやんだのです。それから、不思議なことに必ず泣きやんだので、だれいことなくこのお地蔵さんを泣き地蔵と呼ぶようになったのが、その別名の始まりだと伝えられています」(もみじグラフ「ふるさと箕面の民話」より抜粋)。

悲しい話ですが、子どもを思う親の気持ちが伝わる心温まる民話です。

北向地蔵を後にして、西へ進み府道豊中亀岡線を横切り、箕面文化センターの南西の角で「箕面街道」と交差します。元々ここには、大小道標が2基建てられていましたが、今は箕面文化センターの西側の入り口脇に移転されています。小さい方の道標には「すく(ぐ)中山 是より二里半」の文字が刻まれており(大きい方については古道を訪ねて⑫参照)、巡礼に、真っ直ぐ進むと中山寺まで二里半(約10km)であることを示

しています。



▲道標

さらに西へ進むと阪急箕面駅のホームに突き当たりますが、巡礼道はホームの下をくぐり抜ける地下道として残されています。普段電車に乗っていても、ホームの下に江戸時代から続く巡礼道があることを知っているかたは少ないのではないのでしょうか。

